令和7年度 第75回 広島県公立中学校長研究大会 広島大会

第Ⅰ分科会 Ｂ「主体的・対話的で深い学び」の実現

～授業改善の取組とその基盤となる教育活動の充実～

令和7年8月8日（金）
東広島市立磯松中学校 立田 晃

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

授業改善

学習指導要領　総則　第３　教育課程の実施と学習評価

学習指導要領　総則　第４　児童(生徒)の発達の支援

一体的に充実

授業外の学習の改善

個別最適な学び　（教師視点では「個に応じた指導」）

指導の個別化
- 学習内容の確実な定着
- 必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫
- 各々の特性・学習進度・学習到達度等
- 自ら学習を調整

学習の個性化
- 学習を深め、広げる
- 一人一人に応じた学習活動・学習課題の提供
- 各々の興味・関心・キャリア形成の方向性等
- 自ら学習を調整

協働的な学び

異なる考え方が組み合わさりよりよい学びを生み出す

- 多様な他者と協働
- 一人一人のよい点・可能性

修得主義の考え方を生かす　・個々人の学習状況に応じて学習内容を提供　・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視

・集団に対して共通に教育を行う　・一定の期間の中で個々人の多様な成長を包含　**履修主義**の考え方を生かす

これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領　前文

※本資料は、「教育課程部会における審議のまとめ」（令和３年１月25日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）に基づき、概念を簡略化し図等として整理したものである。

広島県公立中学校長会教育ビジョン より<抜粋>

２「主体的・対話的で深い学び」の創造

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習過程や成果を評価するなど「授業改善」と「評価の改善」を両輪とした取組を推進する。また、校内研修等において各教科等の見方・考え方を働かせながら目標の実現に向けた学習状況を把握するための学習評価の妥当性や信頼性を高めるなど「学習評価の充実」を図る取組を推進する。

★取組の方向性

① 資質・能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントを確立して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視した授業改善に向けて、個別最適な学びや協働的な学びを創造するICTの活用に取り組む。

③ 改訂された観点別評価の趣旨の理解及び目標に準拠した評価の妥当性と信頼性を高める取組を一層進め、学習評価の改善とその研修の充実を図る。

④ 考え、議論する活動等を通して、生徒一人一人が自己の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる「特別な教科 道徳」の充実を図る。

□ 現状と課題

□ 七つの実践紹介

（1）ユニバーサルデザインによる授業改善

（2）デジタルドリルとプリントボックスの併用

（3）外部講師による模擬「自己表現」

（4）道徳教育等におけるSEL−8Sの導入

（5）全校朝読書と全校ビブリオバトル

（6）SSR“スマイルルーム”の運用

（7）まるごと授業参観及び校内実践交流会

□ 成果と課題、改善の方向性

はじめに

東広島市立磯松中学校の現状と課題

【東広島市教育の基本理念】
主体的に学び続け、ともに支え合い、豊かな人生を切り拓く「東広島教育」の創造

〈校長着任時の第一印象〉

- 校内でも元気よく挨拶する生徒が多い学校
- 朝練、放課後と熱心に部活動する学校
- 地域の方の協力がたいへん手厚く、深く愛されている学校

◆全校生徒数 527名(13名) 令和7年5月現在
第1学年 201名(6名) 5学級
第2学年 175名(4名) 5学級
第3学年 151名(3名) 4学級
※( )内は特別支援学級生徒(知的1学級、自情2学級)
◆県費負担教諭等定数 27名

“教育は継続性” これまでの本校の実践を基盤に

令和7年度 東広島市立磯松中学校 グランドデザイン

校訓 “ 思考　実践　敬愛 ”

学習指導要領改訂のポイント … 資質・能力の育成、「主体的・対話的で深い学び」、カリキュラム・マネジメント、社会に開かれた教育課程

広島県の 15 歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力
□自己を認識する力　□自分の人生を選択する力　□表現する力

東広島市学校教育レベルアッププラン
「創造性」「自主性」「協働性」

学校経営理念

1　学校のミッション（使命、存在意義）　**「地域とともに地域の元気と活力をつくり出す」**

2　学校のビジョン（ミッションを達成するためにめざす姿）

◇ 目標に向かってひたむきに努力する生徒
◇ 自分の「思い」が表現できる生徒
◇ 多様性を認め、周りの人を尊敬できる生徒
◇ 様々な経験を活かして前向きに伸びる生徒

◆ 深い愛情をもち、生徒にかかわりきる教職員
◆ 安全・安心のために毅然と対応する教職員
◆ 生徒や保護者、地域の思いに応えていく教職員
◆ “対話と協働”で困難に挑戦する教職員集団

学校教育目標　確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成

【令和７年度　生徒に重点的につけたい「資質・能力」】

主体性：たとえば、自分で目標・計画を立て、授業、家庭学習、練習等に取り組んでいる姿

協働性：たとえば、色々な人と、対話を通じて理解し合い、協力している姿

表現力：たとえば、地域で元気に挨拶をしたり、初対面の方に自分の考えを伝えたりしている姿

学校教育目標の達成に向け、“一人の 10 歩より、全員の 1 歩”で

<確かな学力>

① “分かる+おもしろい”UD の授業づくり
- ・導入、ねらいと流れの明示、振り返り
- ・授業や家庭学習における“選択”
- ・学び直しの機会の設定（磯中トライ他）

② 家庭学習の習慣化
（AI ドリル「ミライシード」の活用等）

③ 読書活動・図書館教育の深化
（全校朝読書、ビブリオバトル等）

④ キャリア教育の充実
（全校生徒が自己表現を実践等）

⑤ 総合的な学習の時間の充実

⑥ ICT の教育活動全般での活用

<心豊か>

⑦ 基本的生活習慣の確立,自律心の育成
（「JASMIN」とポジティブ行動支援）

⑧ ユニバーサル・デザインの推進
（誰もが過ごしやすい学びの環境の整備）

⑨ 多様性を認め合う教育の推進
（人間関係能力を育む SEL-8S の実施）

⑩ 他者への尊敬を高め安全・安心な生活
（ピア・サポート（交流）の充実）

⑪ ボランティア活動の充実
（緑化活動，磯松花咲かせ隊活動等）

⑫ 地域の財産（人・自然・もの等）活用した教育活動の推進

<活力>

⑬ 生徒主体の学校行事の実施
（地域に感動を与える挨拶と行事）

⑭ 活発な部活動の展開
（目標を設定し、ひたむきな努力）

⑮ 生徒会の主体的な活動
（生徒が企画、運営する取組の推進）

⑯ 小中連係の充実
（不登校等支援と実践交流）

⑰ 健康教育、食育、体力向上
（逞しく生きる力を育成）

⑱「命の教育」の充実
（本物に触れる体験の推進）

令和7年度広島県 SSR（本校愛称：スマイルルーム）設置校
～相談する力・自分の強みを知り生かす力・SOS を出す力の育成～

当たり前を極めよう。平凡も極めれば非凡。＋10%の新しさを。

昨年の教職員年齢構成表
（県費本務者・臨採）

教務主任

学年主任

生徒指導主事

（歳）	男性		女性	
65				
64			教諭（再短）	
63	拠点校指導教員	教諭（再フ）		
62		教諭（再フ）		
61		教諭（再フ）		
60				
59			教諭	
58		教諭	教諭	
57		教諭	教諭（育代）	教諭
56				
55				
54				
53				
52			教諭	
51				
50				
49				
48				
47				
46		講師		
45				
44				
43				
42				
41	初	教諭		
40			教諭	
39				
38				
37	教諭（育休任期付）	初 教諭		
36			教諭（育短）	
35 初	教諭	初 教諭		
34				
33				
32				
31				
30				
29				
28				
27				
26		教諭（欠補）		
25			教諭	
24		教諭		
23		教諭（初）	教諭（育代）	
22	教諭（育代）	教諭（初）		

今年の教職員年齢構成表
（県費本務者・臨採）

教務主任

学年主任

生徒指導主事

（歳）	男性			女性		
65				教諭（再短）		
64		教諭（再短）	教諭（再フ）			
63			教諭（再フ）			
62			教諭（再フ）			
61						
60				教諭		
59			教諭			
58			教諭	教諭	教諭（育休任期付）	教諭
57						
56						
55						
54						
53				教務主任		
52						
51						
50						
49						
48						
47			講師			
46						
45						
44						
43			教諭			
42			学年主任③	教諭		
41				教諭		
40						
39						
38		教諭（育休任期付）	学年主任①			
37				教諭		
36		生徒指導主事	学年主任①			
35						
34			教諭			
33						
32						
31						
30						
29						
28				教諭		
27						
26						
25			教諭			
24			教諭			
23			教諭			
22			臨採			

40代の薄さ
対話と協働が不可欠

主任層の育成が急務。職朝、学年部会の開催、主任等面談。校長講話等を通じて、人材育成を図る。

生徒指導事案は、生徒にとっての課題発見・解決の機会であり、その対応を通じて教員の人材育成を図る。

年代差を意識
常識は時代で変わる
地域で異なる
個人で差がある
だから　基準が必要

現状と課題

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

生徒質問紙調査（自己肯定感に関する質問項目から抜粋）

質問番号	質問	分類	肯定的回答	否定的回答	分類	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
9	自分には、よいところがあると思いますか	磯松中	83.8	16.2	磯松中	53.8	30.0	13.1	3.1
		広島県	84.5	15.2	広島県	42.8	41.7	11.2	4.0
		全国	83.3	16.5	全国	40.4	42.9	11.8	4.7
10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	磯松中	90.6	8.1	磯松中	47.5	43.1	7.5	0.6
		広島県	90.0	9.7	広島県	45.0	45.0	7.3	2.4
		全国	90.4	9.3	全国	44.2	46.2	7.0	2.3
11	将来の夢や目標を持っていますか	磯松中	67.5	31.9	磯松中	45.0	22.5	17.5	14.4
		広島県	67.9	31.5	広島県	38.4	29.5	20.3	11.2
		全国	66.3	33.2	全国	36.1	30.2	20.6	12.6
14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	磯松中	85.1	15.0	磯松中	53.8	31.3	10.6	4.4
		広島県	71.9	27.5	広島県	34.0	37.9	19.2	8.3
		全国	67.5	32.1	全国	28.7	38.8	21.9	10.2
16	学校に行くのは楽しいと思いますか	磯松中	86.3	13.8	磯松中	45.0	41.3	11.9	1.9
		広島県	83.2	16.2	広島県	42.6	40.6	11.5	4.7
		全国	83.8	15.5	全国	43.5	40.3	10.8	4.7

- 「あてはまらない」生徒が一定の割合いる。
- ここに、不登校の生徒の声は反映されていない。

①不登校等生徒の支援を組織的に進める必要がある。

②一人一人に「取り組んだ、分かった、できた」という努力と成功の体験を積ませることが重要である。

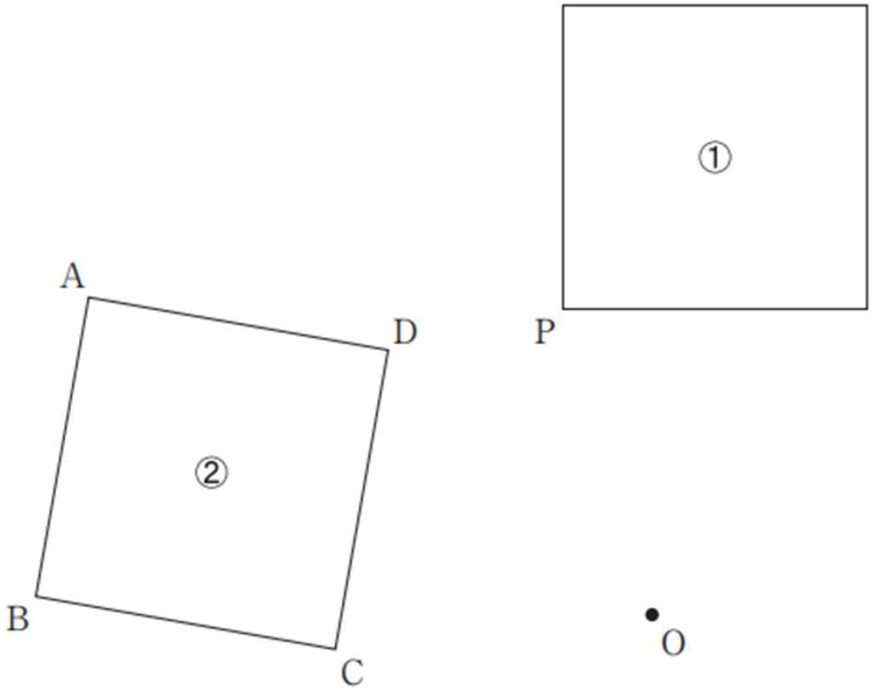
令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より（基礎・基本の定着に課題）

2 等式 $6x + 2y = 1$ を、y について解きなさい。

磯松中　38.0%
広島県　48.6%
全　国　52.5%

3 次の図で、正方形②は、正方形①を点Oを中心として反時計回りに80°だけ回転移動したものです。

正方形①の頂点Pに対応する正方形②の頂点を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



磯松中　55.8%
広島県　67.2%
全　国　68.3%

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

教科学力調査（国語）

	磯松中	広島県（公立）	全国（公立）
全体	58	58	58.1
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	56.6	58.0	59.2
(2) 情報の扱い方に関する事項	61.7	59.2	59.6
(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.3	77.8	75.6
A 話すこと・聞くこと	58.3	59.4	58.8
B 書くこと	64.4	66.1	65.3
C 読むこと	48.3	47.5	47.9

教科学力調査（数学）

	磯松中	広島県（公立）	全国（公立）
教科全体	46	52	52.5
A 数と式	41.1	49.4	51.1
B 図形	32.5	39.3	40.3
C 関数	56.3	60.1	60.7
D データの活用	51.1	55.0	55.5

- 国語は広島県平均と同程度である一方で、数学は広島県平均より－6ポイント。
- 数学は、「数と式」「図形」などの基礎的な内容の定着に課題。
- 小学校の分数や伴って変わる数量でつまずいている生徒が相当数いる。
- 学力差は「ふたこぶラクダ」として現れ、正答率40パーセント未満の生徒が多い。

① 国語は、全校朝読書の継続などの強みを生かしながら、「隙あらば書く」。
② 数学は、個別指導に加え「学び直し」の仕組みづくりを推進。
③ 各教科等でユニバーサルデザインの「分かる＋おもしろい」授業づくりを推進。
④ 端末等も活用しながら家庭学習の習慣化を推進。

令和6年4月1日の校内研修で教職員に聞きました
「磯松中学校の生徒の強みと課題をひとつだけ挙げてください」

強み　① 元気に挨拶をする生徒が多い。

② よくも悪くも素直で元気である。

③ 爆発的なエネルギーを秘めている。

④ 先生のことが好きな生徒が多い。

課題　① 不登校等生徒への支援

② 学力向上（学習意欲の向上）

③ 学習習慣の定着

④ 人間関係を作る力

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、授業改善の取組だけでなく、その基盤となる教育活動を充実・連関させることが重要である。

本校の取組を“「主体的・対話的で深い学び」の実現”の視点で整理

(6)SSR“スマイル・ルーム”の運用
～不登校等生徒に“自己決定”の力を～

(2)デジタルドリルとプリントボックスの併用
～自分に合った学習方法を選択～

(１)ユニバーサルデザインの授業づくり
～特別支援教育の考えを参考に～

「主体的・対話的で深い学び」の実現

(4)道徳教育等におけるSEL-８Sの導入
対話の進め方をロールプレイで学ぶ

(3)外部講師による模擬「自己表現」
～キャリア教育を中軸に据えて～

(5)全校朝読書と全校ビブリオバトル
～読書活動の充実～

(7)まるごと授業参観と校内実践交流会
～１人の10歩より全員の１歩～

七つの実践紹介

（１）ユニバーサルデザインによる授業改善 ～特別支援教育の考えを参考に～

- ◆ 特別支援教育の考え方を通常の授業づくりに活かす（視覚支援の充実、見通し等）。
- ◆ 「授業に対して様々な困難さを感じている生徒には「必要」であり、どの生徒にも「あると便利」な工夫」を増やしていく。

“教師が流れを一言で言えない授業は成功しない”

① めあての提示（何を学ぶのか）

② 展開を生徒と共有（どう学ぶのか見通しをもつ）

③ ICTの活用（共同編集や他者参照に挑戦）

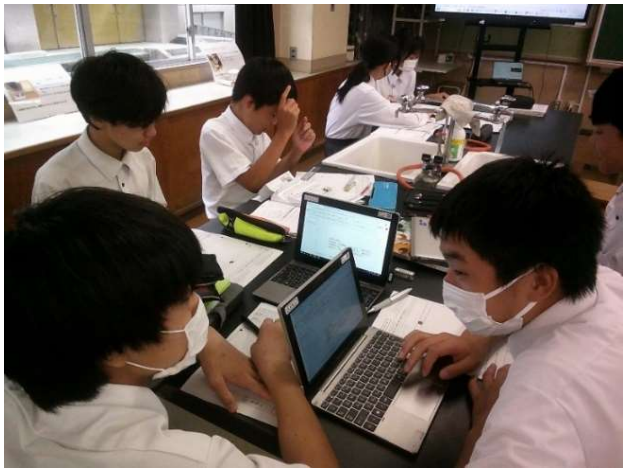
3年生　社会科

3年生　英語科

生徒に“先生たちはチームなんだ”と伝えることに他ならない

“選択”の場面のある授業づくりを ～自己調整型の学習への挑戦～

ステップ・アップできる人は“選択”の場面づくりへ
（東広島市教育研究会理科部会は各校で単元内自由進度学習を実践）



- 本質は学びの環境を整えることで生徒の主体性を引き出すこと…深い教材研究がカギ

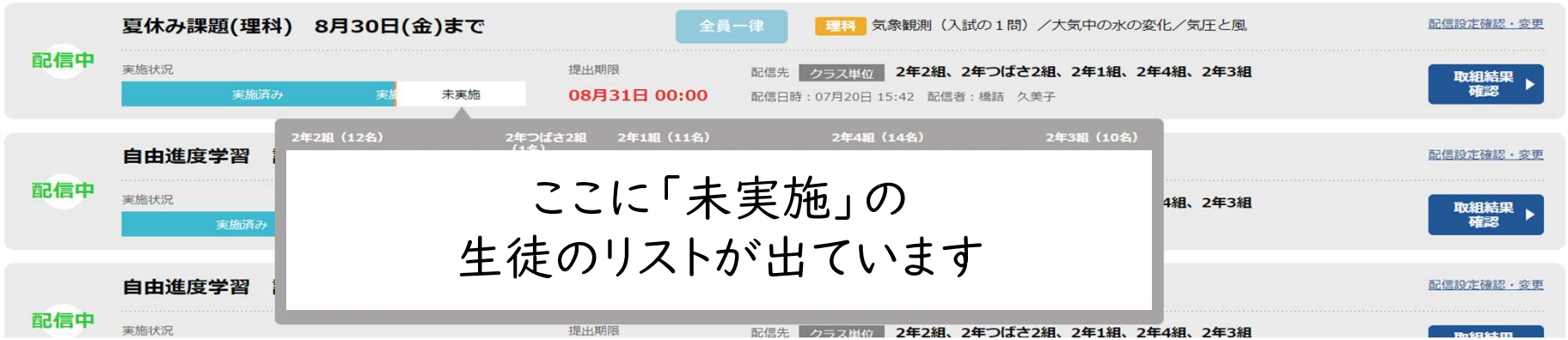
（2）デジタルドリルの活用 ～自分に合った学習方法の選択～

- 本校では、平日毎日、家庭学習用に課題配信(曜日で教科を設定)
- データが蓄積されると苦手をAIが把握→単元名と学習時間を設定すれば、適切な量と難易度の課題を配信

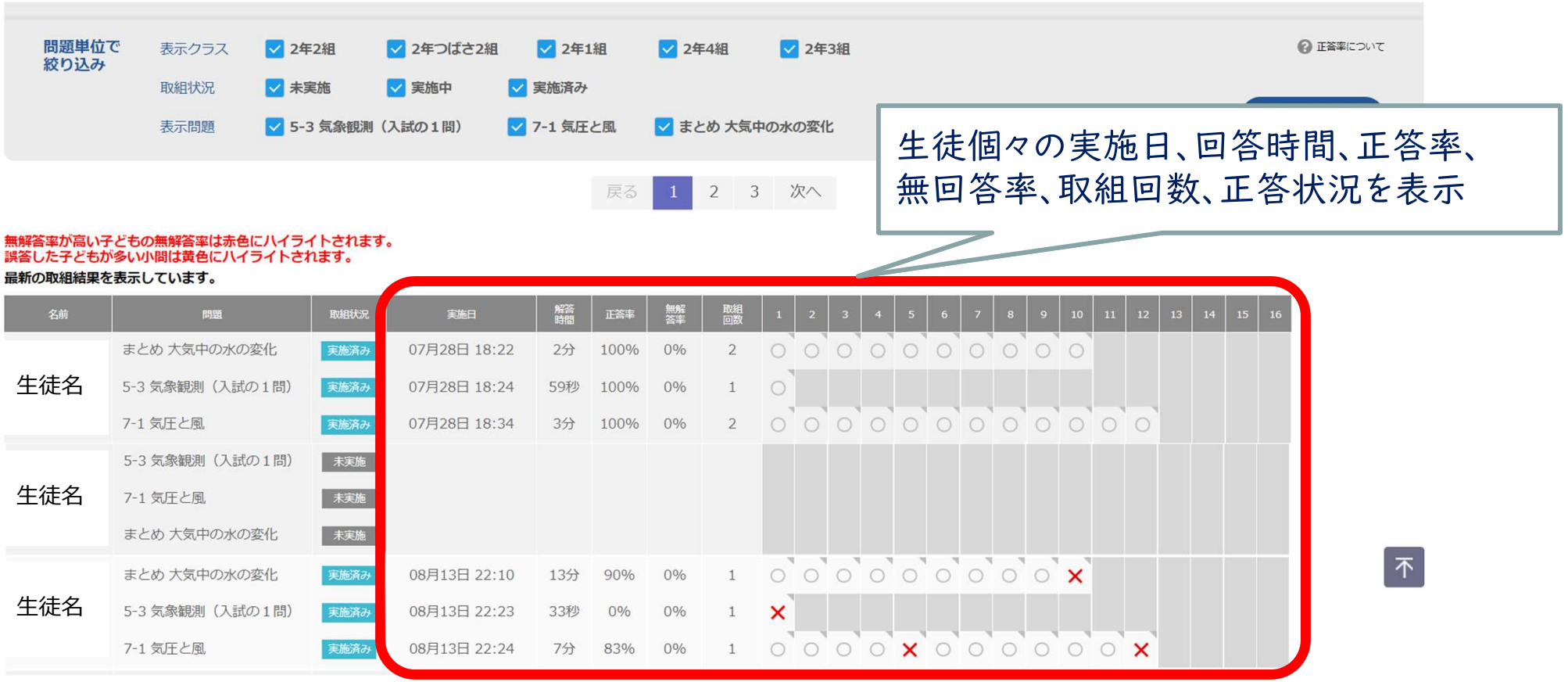
ミライシード（ベネッセ）>ドリルパーク
>教師用画面>配信範囲と配信方法を設定

>「課題履歴確認」で生徒の利用状況を把握

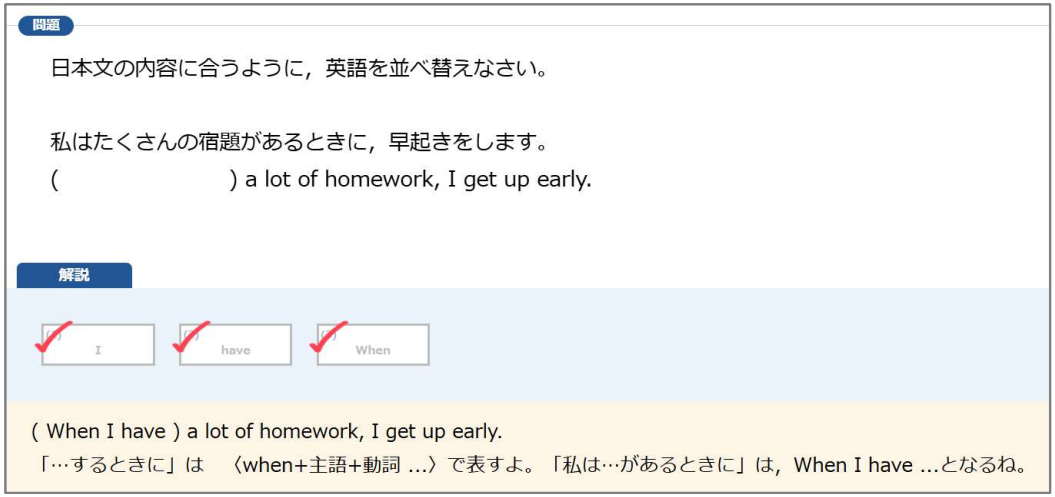
◘ 課題の実施状況を俯瞰できる

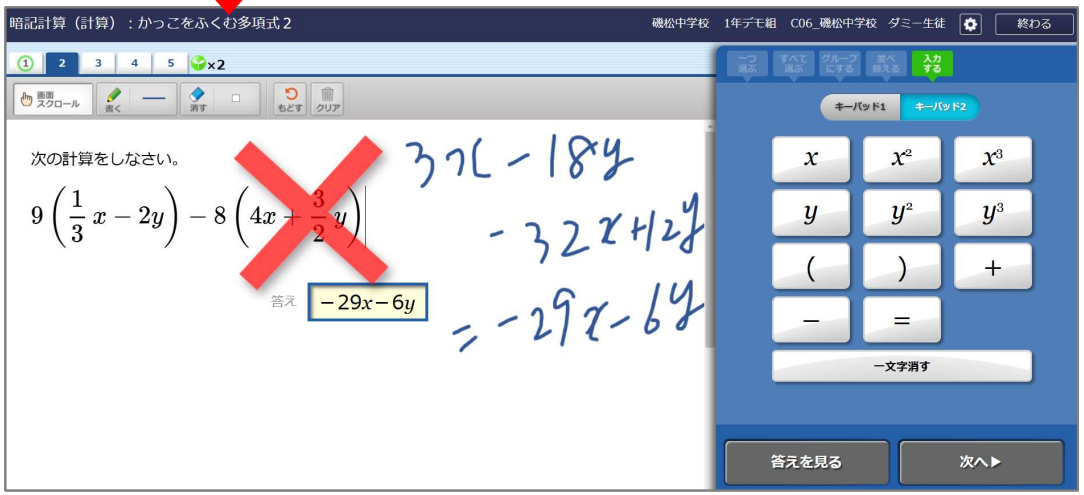


◘ 生徒個々の実施状況や通過率を把握できる



□ 紙媒体の宿題に加える形で課題配信（実際の問題画面）を行っている





Q　1日（月～金）あたりどれくらい家庭学習に取り組んでいますか。（現3年生を追跡）

1時間以上　R5　60%　→　R6　76%　（+16pt）

2時間以上　R5　7%　→　R6　19%　（+12pt）

※そもそも家庭学習時間1時間未満が24%（35人）いることが大きな課題ですが（汗）

プリントボックスの設置 ～「デジタルと鉛筆」～

磯中トライのやりかた

① 引き出しの中をのぞき、ぎりぎりできそうなプリントをチョイスする。
② 解く。
③ 引き出しの中の正答プリント（黄）で採点する。間違えたところは直す（分からないときは先生に質問する。）。
④ 自分をほめる。
⑤ 次のレベルの引き出しに進む。

※正答プリントは共用です。持っていかないでください。
丸テーブルを使うなど、この場で採点しましょう。

職員室前に数学の教材プリントボックスを設置 （宮城県教育委員会「単元問題ライブラリー」を利用許諾を得て活用）

「引き出しを引くことが大事」 自分でどこから始めてみるか考え、主体的に取り組む生徒の姿がある

（3）外部講師による模擬「自己表現」～キャリア教育を中軸に据えて～

広島県では、公立高校入試において「自己表現」（５分間の自己アピールと３分間の質疑）を実施

自己表現について

広島県公立高等学校等※入学者選抜では、受検生全員に自分自身のことを表現する「自己表現」を行っています。

この「自己表現」は、「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」である

自己を**認識**し、自分の人生を**選択**し、**表現**することができる力

が、みなさんに、どのくらい身に付いているのかをみるために行うものです。

自分自身のこと（得意なことやこれまで取り組んできたことなど）や、**高等学校に入学した後の目標**などについて、**自分で選んだ言葉や方法**で表現してください。

※　特別支援学校（職業コース以外の知的障害を除く）についても、高等学校に準じて「自己表現」を行います。

自己表現の流れ（一次選抜の場合）

【第２日】

入　室

自己表現（5分以内）

質問・回答（3分以内）

退　室

合計10分以内

第１日

第２日の集合時刻等の確認を行います。

第２日

自己表現

- 「自己表現」の時間は**５分以内**です。

質問・回答

- 検査官が、みなさんが行った「自己表現」の内容に対して、補足的な質問をします。
- 時間は、回答する時間を含めて３分以内です。

自己表現の評価表

	評価の観点		
	ア　自己を認識する力	イ　自分の人生を選択する力	ウ　表現する力
	評価規準		
	自分は何が好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを認識することができている。	自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができている。	自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができている。
評定	評価及び評価の視点		
5点	□「十分に満足できる」状況 ○「自分自身のことを認識する」ことが十分にできている。	□「十分に満足できる」状況 ○「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことが十分にできている。	□「十分に満足できる」状況 ○「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることが十分にできている。
4点	□「おおむね満足できる」状況 ○「自分自身のことを認識する」ことがおおむねできている。	□「おおむね満足できる」状況 ○「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことがおおむねできている。	□「おおむね満足できる」状況 ○「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることがおおむねできている。
3点	□「努力を要する」状況 ○「自分自身のことを認識する」ことができていない。	□「努力を要する」状況 ○「自分で考える」「自分で選択する」「自分の意志で決める」ことができていない。	□「努力を要する」状況 ○「相手や場面に応じて」「言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら」伝えることができていない。

広島県教育委員会HPより

入試制度の趣旨を踏まえ、3年間を見通したキャリア教育に取り組み、教科等における発表や表現の機会を充実させるとともに、第1学年で職業人講話、第2学年で職場体験、各学年末に保護者参観でミニ「自己表現」を実施している。第3学年において、職場体験先の方を面接官に迎え、模擬「自己表現」を実施している。

生徒はパネルや端末、実物等を示しながらプレゼンを行う。面接官（地域の経営者、個人事業主等で了解いただいた方）は、公開されている評価基準に基づいて評価し、当該生徒にフィードバック（評価と助言）を行う。

【面接官からのフィードバック（抜粋）】

- ◆ 堂々と発表できる。最近の中学生はしっかりとした自分の考えを持っていて驚いた。
- ◆ 読み上げるだけになっている、表情の豊かさに乏しい。熱意をもっと自分の言葉で語るとよい。
- ◆ 内容も大切だが、自信をもって、語尾が下がらないように話すとよい。
- ◆ どんな生き方（進路）を選びたいのか、現時点でしっかりと考えること。
- ◆ 質疑では、臨機応変に対応する。聞かれたことを簡潔明瞭に答えること。
- ◆ 笑顔が一番大切。

令和6年度東広島市立磯松中学校　キャリア教育出前授業（兼）PTA 教育講演会

夢への挑戦

～あなたの夢は何ですか～

令和6年6月26日（水）13:30～15:00　磯松中学校体育館

講師　元マツダ・ロードスター（4代目）開発主査

やまもと　のぶひろ

山本　修弘

【プロフィール】
1973 年　マツダへ入社。ロータリーエンジン研究部で先行開発を担当。
1976 年　ロータリーエンジン研究部にてレーシングロータリーエンジン設計の開発担当に。
　その後、サバンナ RX-7（FC 型）や、ル・マン 24 時間耐久レース用ロータリーエンジンの開発などを担当。
1996 年　2代目ロードスター（NB）や RX-7（FD）の開発にてアシスタントマネージャーを務める。
2002 年　3代目ロードスター（NC）の車両開発副主査に就任。
2007 年　ロードスターの開発主査に就任。2015年4代目ロードスター（ND）を発表。

令和6年6月の全校キャリア教育講演会「夢への挑戦」（講師：マツダロードスター開発責任者　山本修弘氏）

（4）道徳におけるSEL-8Sの導入 ～対話の進め方をロールプレイで学ぶ～

SEL-8S（Social and Emotional Learning of 8Abilities at School）とは

生徒に社会的能力（人間関係を構築したり、望ましい関係へと調整したりする能力）を効果的に育成できるように工夫した学習プログラム。ロールプレイで楽しく実践的に学び、ポスターで意識づけを行う。

「あかめのウサ」のポスター

生徒の感想より

- 「あかめのウサ」「シカのこま」を意識したら話が楽しくなる。
- 私は人の目を見て話すことが苦手なので目を見て話せるようにがんばりたい。
- 相手に「この人にきいてもらえてよかった」と思える話し方をしていきたい。
- 反応を返すことで会話が楽しくなり、笑顔になる。
- 相手がうなずいて聴いてくれるのがうれしくなって、笑顔になった。

参考…小泉令三/山田洋平著「社会性と情動の学習（SEL-8S）の進め方 中学校編」ミネルヴァ書房（2011）

※「あかめのウサ」のポスターは67ページを参考に作成

（5）全校朝読書と全校ビブリオバトル ～読書活動の充実～

読書に親しむことと落ち着いて学習に臨むことをねらいに、全校での朝読書に取り組んでいる。生徒は毎朝登校して後、8時10分から8時20分までの10分間、本を読む。

朝読書に併せて、全校でのビブリオバトルを実施している。「本を通して人を知り、人を通して本を知る」体験となる。

【全校ビブリオバトル（2分間の本の書評合戦）の進め方】

① 「子ども読書の日」（4月23日）から本選びを開始する。
② ゴールデンウィーク中の国語科の課題として書評を作成する。
③ 5月末～6月はじめ、自己紹介も兼ね、学級ごとに国語の時間に書評をプレゼンテーションし、最も多くの票を獲得した学級のチャンプ本を選出する。
④ さらに、学年集会で学年のチャンプ本を選出する。
⑤ 10月、文化祭のステージイベントの一つとして、各学年の代表が全校生徒の前でプレゼンテーションを行い、その年の学校のチャンプ本を選出する。

（6）SSR“スマイル・ルーム”の運用 ～不登校等生徒に“自己決定”の力を～

本校の“スマイル・ルーム”では、

① 相談する力

② 自分の強みを知り生かす力

③ 苦手な場面ではSOSを出す力

の育成を目指す。

「スマイル・ルーム」環境整備 パーテイション

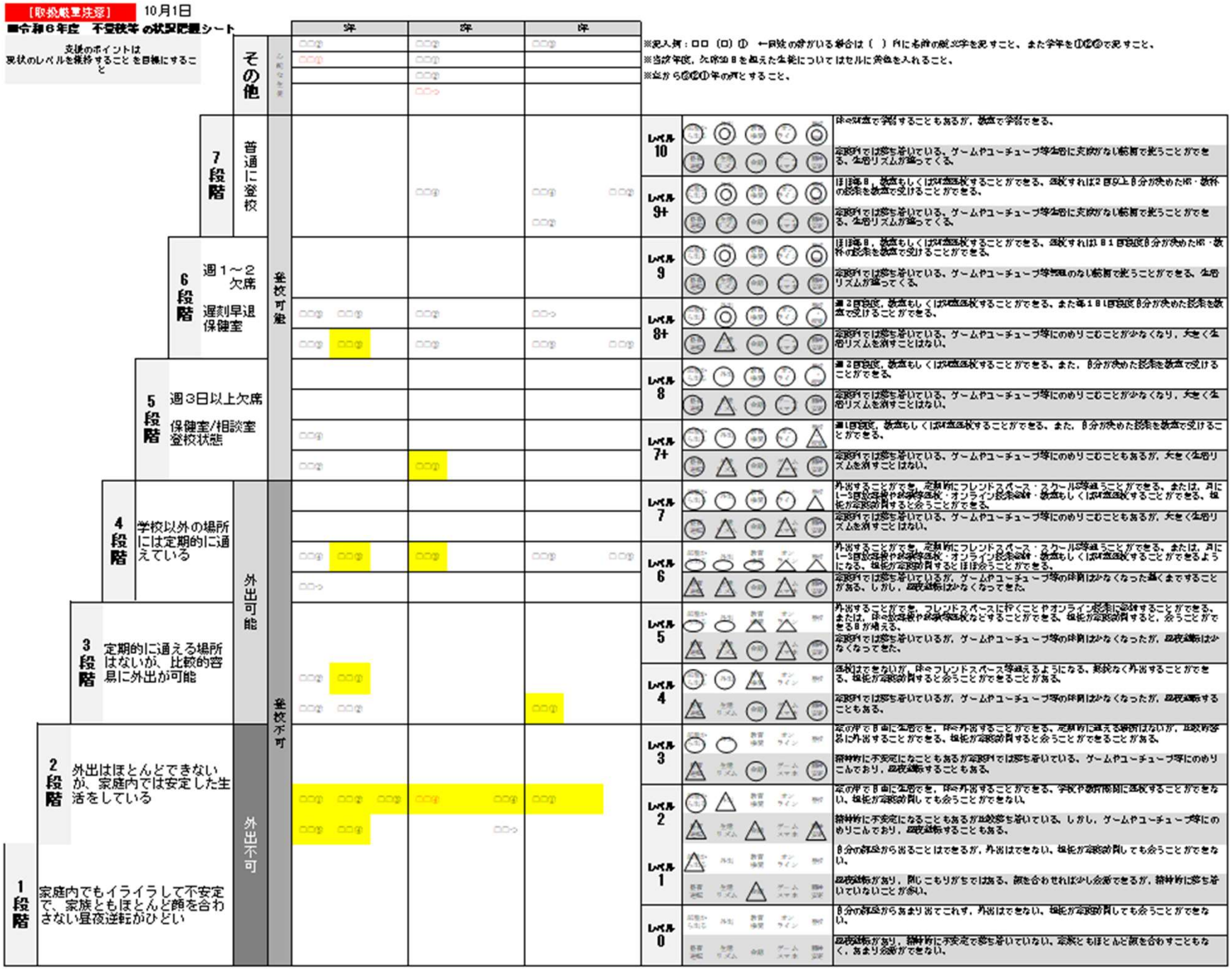
お菓子作り 第4弾 シュークリーム作り

「スマイル・ルーム」環境整備 計画表

“スマイルルーム”による近隣の保育所「あいぐらん保育園 川上」への訪問

幼児の目線に立って活動することによる変容は大きい

“階段シート”による不登校等生徒、気がかりな生徒の状況の把握・共有



SSRにおける“状況の好転がみられる生徒”の現出（好事例を集めていく）

令和7年7月末登録利用者数　14名（うち日常的に利用している生徒　12名）

うち何らかの「状況の好転がみられる」生徒　8名程度

具体的な姿（例）

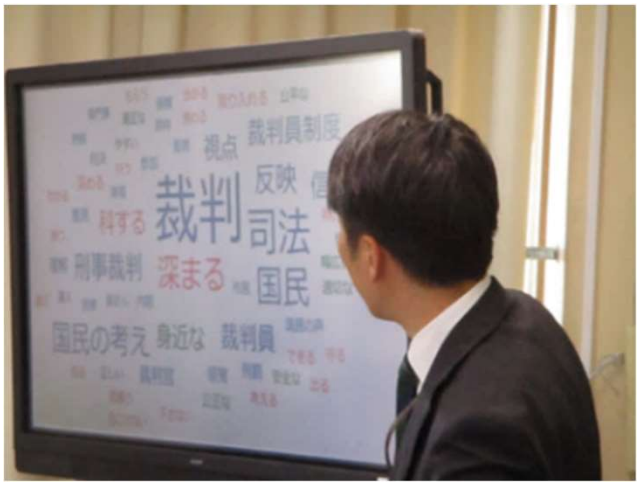
- 年度当初より長期にわたり登校できなかったが、夏休み明けから登校を再開し、吹奏楽部の活動に復帰した。その後も登校が続いており、高校の体験入学や文化祭（吹奏楽部の演奏）にも参加した。【3年生】
- 髪を肩まで伸ばしてどうしても切らなかったが、職場体験（地域センター）に備えて自分で切って全日参加した。その後、SSRで席に着く姿が増えた。PCから離れる時間も増えた。【2年生】
- 毎朝、送りの保護者の車に籠城していたが、アイグランの保育実習ではねそべる幼児にねそべって話しかけるといった姿が見られた。現在、籠城はせず、SSRの活動に参加するようになった。【1年生】 他

（7）まるごと授業参観及び校内実践交流会 ～1人の10歩より全員の1歩～

全校で取組を進めるための「仕掛け」が必要

- 日頃の授業参観の際の評価項目に設定
- 50分のまるごと授業参観を業績評価面談と能力評価面談に関連付け
- 「形にする」（スライド1枚にまとめ校内研修で実践交流）

① 教員は、授業で実践したいICTの活用について市のICT支援員に相談する。
② 教員は、10～11月に、①の授業について管理職による1時間まるごと授業参観を行う。
③ 管理職は、②の授業参観を踏まえ、業績評価面談や能力評価面談を行う。
④ 教員は、③の実践をスライド1枚にまとめ、クラウド上にアップする。
⑤ 1月最初の校内研修で交流する。



テキストマイニング（社会科）

動画の分析（保健体育）

実践をクラウド上に保存・交流

成果・課題・改善の方向性

「主体的・対話的で深い学び」の実現

□成果…組織的な取組が実践、生徒の意識が向上

① ユニバーサルデザインの授業改善に取り組んでいる教員 77.0%⇒87.1%(+10.1pt)

② 1人1台端末をほぼ毎日使っていると回答した生徒 44.8%⇒63.2%(+18.4pt)

③ 将来の夢や目標をもっていると回答した生徒 62.6%⇒69.9%(+7.3pt)[広島県67.2%]

④ 月に一冊以上本を読むと回答した生徒 70.5%⇒72.0%(+1.5pt)[広島県58.2%]

⑤ 自分で考え、自分から学習に取り組んでいると回答した生徒 42.1%⇒47.2%(+5.1pt)

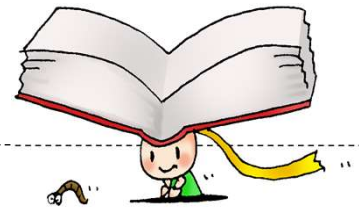
※数値は、本校独自の質問紙調査の結果を令和6年度の9月と2月で比較している。①②③は肯定的回答の割合である。広島県の数値は6月実施の広島県児童生徒学習意識等調査による。

◆課題…教科学力の向上には一定の時間が必要、学年間で差

○ 特に数学について、習熟度テストの平均点が全国より低く、取組の効果が教科学力の定着にまで波及していない。小学校の分数や伴って変わる数量でつまずいている生徒が多い。

○ 家庭学習の習慣化に学年間で差が出ている。平日に1時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が、第3学年は増加したものの第1・2学年は減少している。

○ 深い学びの実現について、取組の評価が難しい。



「主体的・対話的で深い学び」の実現

■改善の方向性…次の課題を共有し、教職員の「対話と協働」を更に進める。

- 深い学びの実現に向け、教材研究の質を高め、単元計画を充分に検討すること。
- 学習のつまずきを踏まえ、学び直しの機会を設けること。
- 共同編集や他者参照等の授業におけるICTの効果的な活用をさらに進めること。
- 総合的な学習の時間における探究的な学びの質の向上を図ること。
- 課題のある生徒に、学習における小さな成功体験を意図的に積み上げさせること。

各学年主任がリーダーシップを発揮

短時間のMTGで今日の動きを確認

おわりに　校長の“つぶやき”　～毎朝の１枚プレゼン～

メッセージ型

超絶簡単で必ず学力が上がる授業改善シリーズ　その壱

キーワード

校訓の“思考”　“自己表現”　“思考力・判断力・表現力”　全国学力・学習状況調査

すきあらば書かせる

STEP１　定期テストに記述問題を必ず数問は設定する。

（論理的な説明を求める。字数制限は思考を促す。キーワードを使わせる。）

「比べて」「違いが分かるように」、40字、80字、１20字、200字

STEP2　すると、授業の中で記述によりまとめる場を設定するようになる。

（授業準備段階で教師も書いてみる>これこそが教材研究）

STEP3　週末課題もドリルだけでなく、レポートを課す。

40

フィードバック型

5月22日（水）AM　西部教育事務所訪問指導

杉本西部教育事務所長から

- ベテランから若手までバランスよく配置され、前向きに取り組まれている学校という印象。
- 多様な背景や状況の生徒が多くいる等、厳しい実態があると聞いていた。そのような中で、生徒は予想以上に落ち着いて学校生活を送っていると感じた。

前田管理主事から

- 視覚支援のホワイトボードを多くの教室で活用されていて、学校が一体的に様々なことに取り組んでいることが感じられた。
- 授業を大切に。寝ている子への指導を授業者自身もしていく。管理職にさせてはいけない。授業中の姿勢の崩れが気になる。これくらいはいいだろうから崩れる。指導すればまだまだできる生徒だと感じた。あらためて全ての指導者で指導していきましょう。外部からの訪問もうまく使ってください。

東広島市教育委員会から

- ◆ 市場教育長から　空き教室もきちんと机が整理整頓されている。ミライシードの活用も含めて、授業づくりに一人一台端末をさらに利用してほしい。
- ◆ 吉岡学事課長から　授業の様子から、生徒と先生の信頼関係を感じました。
- ◆ 西村課長補佐兼管理主事から　職員室でも先生方同士が生徒のことで声を掛け合いながら業務に取り組んでいる姿が見られた。若い先生方も、ベテラン勢に倣ってよく動いている印象。

初任者へのエール型

7月5日（金）東広島市教育委員会　初任者研修訪問

授業者　沖田教諭【国語】　2校時　１年2組（沖村学級）

- ねらい…本文を参考に、相手を説得する文章を書く時の工夫を述べることができる。
- 手だて①　本文を通して読ませ、論理的な文章の“表現の方法”に気づかせること（見方・考え方）
- 手だて②　ICT機器の活用（Jamboad）による協働的な学びを企図していること（タブレット）
- 手だて③　得た知識を今後のレポート等の作成に生かさせること（実生活・実社会）
- 沖田教諭の目標…意見交流の質を向上させ、生徒の深い学びを促すことができるようになりたい。

授業者　小田原教諭【社会（地理分野）】　3校時　2年2組（天根学級）

- ねらい…日本の人口に関する課題を、いろいろな視点から捉えることができる。
- 手だて①　複数の資料を提示し、“人々の営み”に係る課題を見出す力をつけること（見方・考え方）
- 手だて②　ICT機器の活用（検索）による探究的に学ぶ場面を企図していること（タブレット）
- 手だて③　視点をもつことで、実社会の課題の分析ができることに気づかせること（実生活・実社会）
- 小田原教諭の目標…生徒の反応をよく見て、心に響く授業ができるようになりたい。

我々教師も、伸びようという気持ちを持ち、授業改善に努めることで、毎日成長する生徒達の気持ちを理解し、ともに成長することができるのです。（大村はま先生の著書より）

初任者が学ぶ　初任者に学ぶ　初任者と学ぶ　＞　初任者配置は本校の財産であり飛躍のチャンス

振り返り型

令和7年4月1日(火)　新しい磯松中学校　～仕事は楽しく～

【校長から　はじめに　】

磯松中学校の使命は、生徒の命を守り、一人一人に生きる力を育み、希望の進路を実現すること

【仕事の進め方キーワード】

- ワアワア言おう（対話と協働こそ我々の最強の武器）　安心・安全な学校づくりの基盤
- 一人の１０歩より全員の１歩を目指そう（足並みを揃えて）
- 誠意はスピードにあらわれる（報告は迅速に。初動で決まる。その日のことはその日のうちに。）

【校内組織づくりキーワード】

- 縦糸と横糸…主任層の機能化、学年主任の横の連携、生徒会と生徒指導主事の連携
- スーパー副担任構想、若手職員を全員で支える（よい組織では若手が育つ）

【ワークショップ　磯松中学校の生徒の実態】

○…元気に挨拶をする生徒が多い。よくも悪くも素直で元気である。爆発的なエネルギーを秘めている。先生のことが好きな生徒が多い。

▲…人とつながることが苦手な生徒がいる。学力（学習意欲、学習習慣、課題提出）に課題がある。人の話を聞けない生徒が多い。粘り強さに欠ける。

＜磯松中学校の基本的な課題＞　生徒は“選択と自己決定”、教職員は“対話と協働”

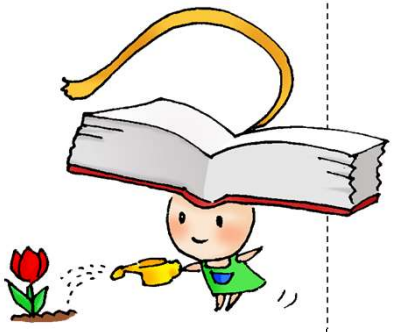
- □　不登校等の未然防止・早期対応・支援（教室とのつながり、職員室とのつながり、地域とのつながり）
- □　学力向上（UDの授業づくり、洗濯の場面、やったらできたという小さな成功体験、学び直し）
- □　人とつながる力（あいさつ、学級集団づくり、生徒会主体の活動、社会で活躍する人との出会い）

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた教職員研修（実践編①）」のお知らせ

- 令和7年度「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた教職員研修（実践編①）」の会場校として、本校の教員3名が授業提案（授業参観）を行います。
- 各学校における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組の推進に向けて、授業参観と講師を交えた対話会が実施されます。
- 興味をもたれた先生方は、ぜひおいでください。

主催	広島県教育委員会（義務教育指導課）
日時	令和7年9月30日（火） 午後
会場	東広島市立磯松中学校
授業提案	第2学年国語、第3学年理科、第3学年社会
研修内容	取組の説明、授業参観、講師を交えた対話会等
講師	山口大学准教授 宮木 秀雄 氏

※詳細については、1か月前を目途に通知されるとのことです。



第Ⅰ分科会 B

【協議の柱】

③ 全ての子供たちの可能性を引き出す、
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現